

第 34 回建設業経理事務士検定試験

3 級試験問題

注 意 事 項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--

↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑
一 千 百 十 一 千 百 十 一
億 万 万 万 万 の の の の
の の の の の 位 位 位 位
位 位 位 位 位

3. 解答は、指定したワケ内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 茨城工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～U）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。

（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- （1） 額面¥500,000の甲社の社債を額面¥100につき¥98で買い入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- （2） 仮受金として処理していた¥870,000は、工事の受注に伴う前受金であることが判明した。
- （3） 東北銀行において約束手形¥320,000を割引き、¥5,400を差し引かれた手取額を当座預金に預け入れた。
- （4） 下請業者である宮崎工務店から、金額¥1,100,000の第1回出来高報告書を受け取った。
- （5） 決算に際して、当期純利益¥750,000を資本金勘定に振り替えた。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 仮払金	D 仮受金	E 有価証券
F 有価証券売却損	G 未成工事受入金	H 工事未払金	J 受取手形	K 支払手形
L 給料	M 労務費	N 外注費	Q 損益	R 完成工事未収入金
S 資本金	T 残高	U 手形売却損		

〔第2問〕 下記の工事原価計算表と未成工事支出金勘定に基づき、解答用紙の完成工事原価報告書を作成しなさい。（12点）

工事原価計算表

（単位：円）

摘 要	101号工事		102号工事		103号工事	104号工事	合 計
	前期繰越	当期発生	前期繰越	当期発生	当期発生	当期発生	
材 料 費	196,000	×××	58,000	86,000	113,000	83,000	634,000
労 務 費	×××	85,000	49,000	×××	89,000	×××	×××
外 注 費	97,000	×××	62,000	45,000	×××	36,000	366,000
経 費	72,000	56,000	×××	32,000	26,000	×××	243,000
合 計	510,000	308,000	×××	×××	×××	202,000	×××
期末の状況	完 成		未 完 成		完 成	未 完 成	

未成工事支出金

（単位：円）

前 期 繰 越	717,000	完成工事原価	×××
材 料 費	×××	次 期 繰 越	×××
労 務 費	309,000		
外 注 費	×××		
経 費	×××		
	×××		×××

【第3問】 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（平成×年5月31日現在）を完成しなさい。なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。 (30点)

<資料1>

合計試算表
平成×年5月20日現在

(単位：円)

借 方	勘 定 科 目	貸 方
1,562,000	現 金	406,000
2,439,000	当 座 預 金	1,242,000
1,585,000	受 取 手 形	1,037,000
1,016,000	完 成 工 事 未 収 入 金	586,000
523,000	材 料	278,000
485,000	機 械 装 置	
319,000	備 品	
918,000	支 払 手 形	1,954,000
287,000	工 事 未 払 金	835,000
764,000	借 入 金	2,247,000
692,000	未 成 工 事 受 入 金	1,143,000
	資 本 金	2,000,000
	完 成 工 事 高	2,528,000
1,456,000	材 料 費	
966,000	労 務 費	
628,000	外 注 費	
353,000	経 費	
221,000	給 料	
33,000	支 払 家 賃	
	雑 収 入	9,000
18,000	支 払 利 息	
14,265,000		14,265,000

<資料2> 平成×年5月21日から5月31日までの取引

- 21日 材料¥214,000を掛けで購入し、本社倉庫に搬入した。
- 22日 工事の未収代金¥360,000を小切手で受け取った。
- 23日 工事契約が成立し、前受金として¥190,000が当座預金に振り込まれた。
- 24日 現金¥100,000を当座預金から引き出した。
- 25日 現場作業員の賃金¥432,000を現金で支払った。
〃 本社事務員の給料¥298,000を現金で支払った。
- 26日 材料¥123,000を本社倉庫より現場に送った。
- 27日 取立依頼中の約束手形¥240,000が支払期日につき、当座預金に入金になった旨の通知を受けた。
- 28日 本社事務所の家賃¥85,000を支払うため、小切手を振り出した。
- 29日 外注工事の未払代金の支払いのため、約束手形¥372,000を振り出した。
- 30日 当社振り出しの約束手形¥170,000が支払期日につき、当座預金から引き落とされた。
〃 現場の動力費¥42,000を現金で支払った。
- 31日 借入金¥350,000とその利息¥6,000を支払うため、小切手を振り出した。
〃 工事が完成し、引き渡した。工事代金¥800,000のうち、前受金¥200,000を差し引いた残金を請求した。

〔第4問〕 次の文の の中に入る適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～シ）を記入しなさい。
(10点)

- (1) 減価償却費の記帳方法には、 a と b の2つがある。
- (2) 企業の主たる営業活動に対して、付随的な活動から生ずる費用を c といい、これには d などが含まれる。
- (3) 完成工事未収入金の回収可能見積額は、その期末残高から e を差し引いた額である。

〈用語群〉

- | | | | |
|---------|---------|----------|--------------|
| ア 支払利息 | イ 貸倒引当金 | ウ 直接記入法 | エ 減価償却累計額 |
| オ 継続記録法 | カ 間接記入法 | キ 完成工事原価 | ク 販売費及び一般管理費 |
| コ 営業費用 | サ 棚卸計算法 | シ 営業外費用 | |

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されている熊本工務店の当会計年度（平成×年1月1日～平成×年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。
(28点)

〈決算整理事項等〉

- (1) 機械装置（工事現場用）について¥35,000、備品（一般管理部門用）について¥29,000の減価償却費を計上する。
- (2) 有価証券の時価は¥264,000である。評価損を計上する。
- (3) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して2%の貸倒引当金を設定する。（差額補充法）
- (4) 保険料には、前払分¥2,500が含まれている。
- (5) 貸付金利息の未収分¥1,300がある。
- (6) 未成工事支出金の次期繰越額は¥189,000である。